



三重大学 (三重県)



将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、
国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側には海岸の波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数

学部学生数：6,028名

大学院生数：1,111名

教員数：778名

外国人留学生数：291名（34カ国）

〈2019年5月1日現在〉

◆環境先進大学

本学は国際規格であるISO 14001の認証を受けて様々な環境マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の116大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報交換などを行っています。

〈2019年5月1日現在〉

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	留学生	日研生
2017年度	316名	4名
2018年度	298名	4名
2019年度	291名	4名



伊勢神宮 内宮



鈴鹿サーキット



伊賀上野城



三重大学国際交流センター

④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約28万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となりました。三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も、ここ三重県にあります。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、「文学の神様」と呼ばれる横光利一も中学時代を三重県で過ごしました。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。伊勢神宮を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、熊野古道は、2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある鈴鹿サーキットは、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。F1日本グランプリが開かれることにより、世界各国から多くのファンが集まります。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② コースの特色

◆将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指している人のためのコースです。

◆地域住民及び三重大学生、在日外国人や留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。

◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究や報告書の書き方について学ぶことができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

(1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。

(2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本のかけはしとなる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2020年10月1日～2021年8月31日
修了式は8月31日までに開催予定

⑦ 奨学金支給期間

2020年10月～2021年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

◆秋学期（後期）

9月下旬 渡日／オリエンテーション
日本語レベル判定試験
10月 ウェルカムパーティ
授業開始
11月 大学祭
12月 研修旅行
国際交流ディズ
2月 期末テスト
中間発表会



◆春学期（前期）

4月 授業開始
7月 最終発表会
8月 盆踊り大会
研修レポート提出
修了式／帰国

⑨ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修レポートの執筆と研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究または実践活動を進めます。

2月初旬：中間発表会
7月中旬：最終発表会
8月末：研修レポート提出〆切



発表会の模様

◆コースに入りしだい、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルに分かれます。自分のレベルに合わせて、中級後半から上級レベルの日本語を集中的に学習します。

2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆中級Ⅱ

授業名 (単位数)	主な目標
文法・読解 (1単位)	中・上級レベルの表現文型を体系的に学び、運用する力を身につける。
読解・作文 (1単位)	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
聴解・会話 (1単位)	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話力を高める。
日本語・日本文化演習 (1単位)	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。
日本事情Ⅰ：三重の社会と文化（2単位）	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して、楽しみながら理解する。

◆上級

授業名 (単位数)	主な目標
上級総合日本語Ⅰ（1単位）	学術的な小論文の書き方の基礎を学ぶ。また、実際に小論文を書く。
上級総合日本語Ⅱ：留学生と学ぶ日本（1単位）	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
日本語・日本文化演習（1単位）	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。
日本事情Ⅰ：三重の社会と文化（2単位）	日本と三重県の社会文化環境を学外研修などを通して、楽しみながら理解する。

Ⅱ) 選択科目

◆以下のような選択科目があります。

●日本語による科目

「上級へのステップアップ」(1単位)

「日本事情Ⅱ：メディアと日本(後期のみ)」
(2単位)

●英語による国際教養科目

「世界遺産と私たち」(2単位)

「環境問題と地球」(2単位)

「英語でエッセイ」(2単位)

◆上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択して受講することもできます。

◆上記の国際交流センターの科目のほかに、他学部の科目を選択し、受講することもできます。

3) 見学、地域交流等の参加型科目

「日本事情Ⅰ：三重の社会と文化(必修科目)」(2単位)では、三重県の文化・歴史等について調べ、バスで様々な場所を訪問して地域の社会や文化、産業などについて学びます。



4) 日本人学生との共修の機会

国際交流センターが全学(教養教育院)に開放している科目では、すべて日本人学生と共に学ぶことができます。開放科目は以下の通りです。

●日本語による科目

「上級総合日本語Ⅱ：留学生と学ぶ日本(上級必修科目)」(1単位)

●英語による国際教養科目

「三重学：三重の社会と文化」(2単位)

「日本学：メディアと日本(前期のみ)」
(2単位)

⑪ 指導体制

◆福岡昌子教授(専門：音声・第二言語習得)

◆松岡知津子准教授(専門：文法)

◆栗田聡子准教授(専門：メディア心理学)

◆正路真一助教(専門：心理言語学・第二言語習得)

■宿 舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が3つあります。「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館(1988年建設)

月額 6,900円～14,000円

②外国人留学生寄宿舍(2009/15年建設)

月額 7,500円～30,000円

③国際女子学生寄宿舍(1973年建設) 月額 5,900円



上(左) 外国人留学生寄宿舍外観

(右) 同 共用キッチン

下(左) 同 シェアルームのダイニング

(右) 国際女子学生寄宿舍居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズでイベントを開く予定です。

■その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

◆てらこやサークル

三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をしたり、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日を一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持つことができます。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



三重大学上浜キャンパス

シロモチくん
(津市PRキャラクター)

■問合せ先

<担当部署>

三重大学学術情報部国際交流チーム

住所： 〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

TEL： +81-59-231-9688 (直通)

FAX： +81-59-231-5692

Email： ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際交流センター：

<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学：

<http://www.mie-u.ac.jp/>